

板金加工から組立・品質管理まで一貫でこなし エレベーターの重要部材の「質」を造り込む。

**板金加工の一貫生産ができる
技術と設備を備える**

エレベーターのかご(人が乗る箱)はガイドレールに沿って昇降する。列車がレール上を走ると似た構造だ。長谷金属が数多く製作しているレールブラケットは、このガイドレールを建築躯体に固定するための金属部材。厚さ6mmや9mmの鋼板を「L」型に曲げて造る。安全な昇降の基盤を支える部材だ。

愛荘町にある長谷金属の工場には、レーザー加工機やターレットパンチングプレス(タレパン)、プレスブレーキ等の加工設備が設置されている。鋼板を抜き打ち加工する、曲げる、切断する、穴を開ける。板金加工で求められる技のすべてをこなせるほどの充実ぶりだ。

主要納入先は大手エレベーターメーカーA社。前述のレールブラケットのほかエレベーターの点検台やスイッチ類を収めるボックスなど「A社が必要とする板金加工で造れるものの7割」を任せ、約2千アイテムを納入。板金分野のA社向けサプライヤーとしては間違いなくトップランクだ。

「当社の強みは一貫生産。抜いて曲げるだけでなく、溶接や塗装も行い、ボルト、ナットや電気配線などを組み込んだ組立や最終検査までこなし」。

**付加価値ある製品づくりを目指し
試行錯誤を重ねる**

こんな長谷佳幸社長のお話から、長い期間をかけて設備を充実させ、加工技術を蓄積してきたのだろうと想像した。ところがさらにお聞きすると「実は板金加工を始めたのは2006年頃から。それまでは父(長谷正義先代社長)の代から引き継いだ鋼材問屋だった」とのこと。

1964年に創業した長谷金属は「町工場等のユーザーに近い二次問屋」として成長。長谷社長が80年に家業を継ぎ、第二次オイルショック等の荒波にもまれながらも、東大阪で鋼材卸を営み続けた。「鉄鋼関連の業界が冷え切っていた時代で、ただ卸すだけでは未来がないと考え、100坪の工場に先進のシャーリングマシンを設置し、注文の幅に切つて提供する加工を充実させた。でも、鋼材卸は「キロなんぼの世界。切断加工の手間

指定の形に抜き打ち加工したら買う」とのオーダーをいただいた」。

その注文を満たすため即座にタレパンを購入したが、機械操作や加工に関する知識はゼロ。「でも、これをこなせば長谷金属は生まれ変わる」。なぜかそんな気がして無我夢中で挑んだという。抜き加工をクリアすると、次は「曲げて欲しい」と求められた。長谷社長は今度も迷わず設備を整えた。A社と何度もやり取りを続けるうちに、確実に板金加工の技術力を身に付けていった。「設備も技術もなかった当社に、A社はなぜ次々と新たな課題を与えてくださったのか。いま考えると、当社の挑戦する熱意が伝わり、将来信頼できる加工業者へ育てようとの思いが



大型設備が並ぶ板金加工工場



組立・検査のようすと組立部品



塗装後のレールブラケット類

組立後のエレベーター点検台

賃も取れない状況が続く、先が見えなかった」。転機が訪れたのは93年。親しかった商社が滋賀県にコイルセンターを構え、「共に販路を拓こう」と長谷社長に相談。それに応じて長谷金属

※コイルセンター／鉄鋼メーカー製のロール状コイルを板状に伸ばしたり小コイルに分割したりする加工センター

あつたのでは。ご縁というほかない」。鋼材卸から板金加工業へ。つまり「自ら付加価値を生み出せる業態」への転換の階段を長谷金属が一歩ずつ昇り始めた07年、劇的な事件が起こった。A社が長谷金属を含む数社に発注して製作させたレールブラケットの大半に、鋼材の強度不足が発覚。原因の大半は、A社指定の高張力鋼とは異なる類似品を使用したことだった。しかし長谷金属だけは指定された規格品を確実に使っていたのだ。

※高張力鋼／一般構造用鋼材より引っ張りに対して強い鋼材

**材料の品質が問われる時代に
昔からの蓄積が強みになった**

「鋼材問屋だった当社にとって、指定された鋼材を間違いない仕入れるのは当たり前のこと。鉄鋼メーカーと契約し、材質を確実に保証提供する体制ができていた」。これを機に同社へのレールブラケット発注量が増加。鋼材のトレーサビリティに目を光らせるようになったA社の要求品質に確実に応えることで、より一層の信頼関係を築いている。まさに、昔から蓄積してきたものが新たな強みになった形だ。いまではA社から品質検査の代行を任せられるほどに。3年間、毎月合同で品質会議を開き、一緒に品質管理基準を作り込んだ成果である。

今後はさらに高精度な機械加工へ挑む構えだ。「炭素繊維コンポジットの切削加工も勉強中。将来を見据え、鉄の代替部品として準備しておけば、いつでも顧客へ提案できる」。長谷社長の付加価値を高める挑戦は、まだまだ続く。

Voice 代表取締役社長 長谷 佳幸氏

おかげさまで、今年7月に創立50周年を迎えます。
板金加工全般に加え、溶接・塗装・組立・機械加工、最終検査まで一貫生産。
さらに、長く鋼材を扱った経験から、材料の組成・強度等の管理も万全です。
2000年に取得したISO9001の管理手法を生かして、幅広いニーズにお応えします。



Profile 長谷金属株式会社



- 本社/愛知県愛荘町島川115
- 設立/1964年
- 資本金/1,000万円
- 従業員数/33名
- 事業内容/鋼板の切断加工製品の製造、板金加工製品及び溶接製品の製造、機械加工製品の製造、一般鋼材及び合金鋼材の仕入れ及び卸売り販売